

松浦屏風と



大和文華館

●朝日・美術館風土記シリーズ——⑫

松浦屏風と大和文華館

朝日新聞社

0371-258172-0042

朝日・美術館風土記シリーズ

松浦屏風と大和文華館

朝日新聞社編

定価 九八〇円

発行 昭和五十八年七月十五日 第一刷

発行者 小島 茂

印刷所 共同印刷株式会社

発行所 朝日新聞社

〒104 東京都中央区築地五―三―二

電話 〇三二 五四五 〇一三一 (代表)

編集・プロジェクト室 販売・出版販売部

振替 東京〇―一七三〇

© 朝日新聞社 1983



寢覚物語絵巻 絵 第一段 部分



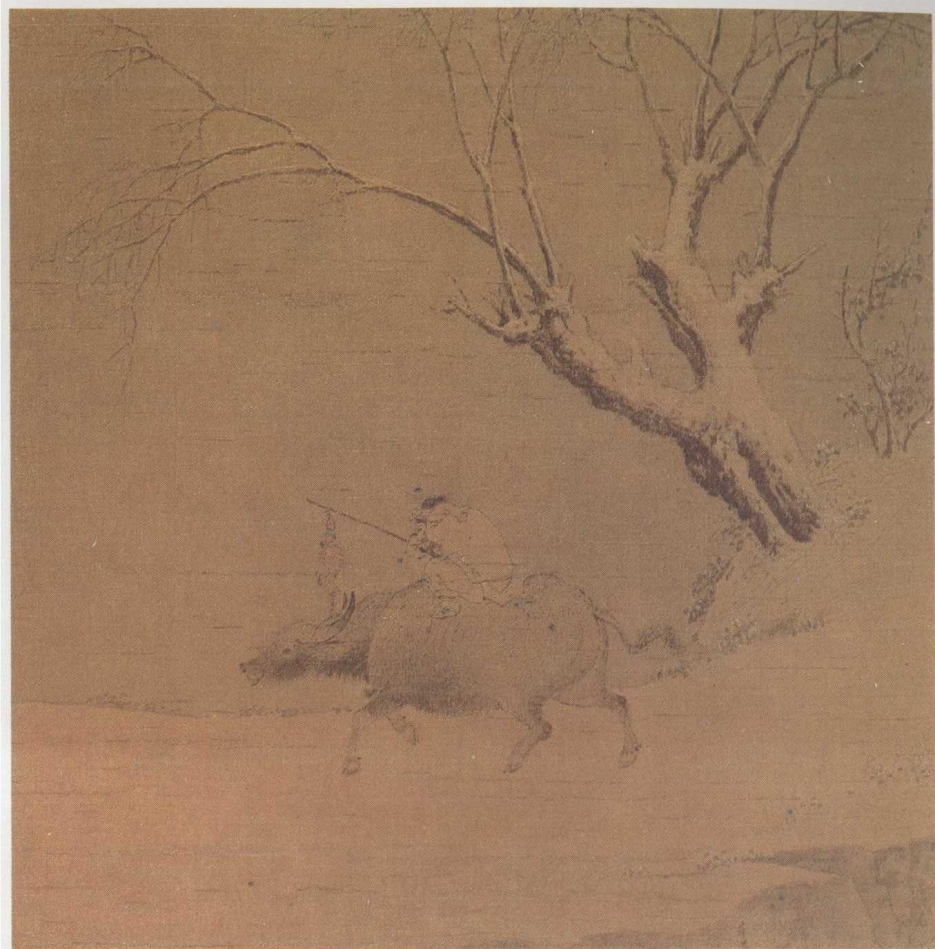




三彩立女俑 中国 唐時代



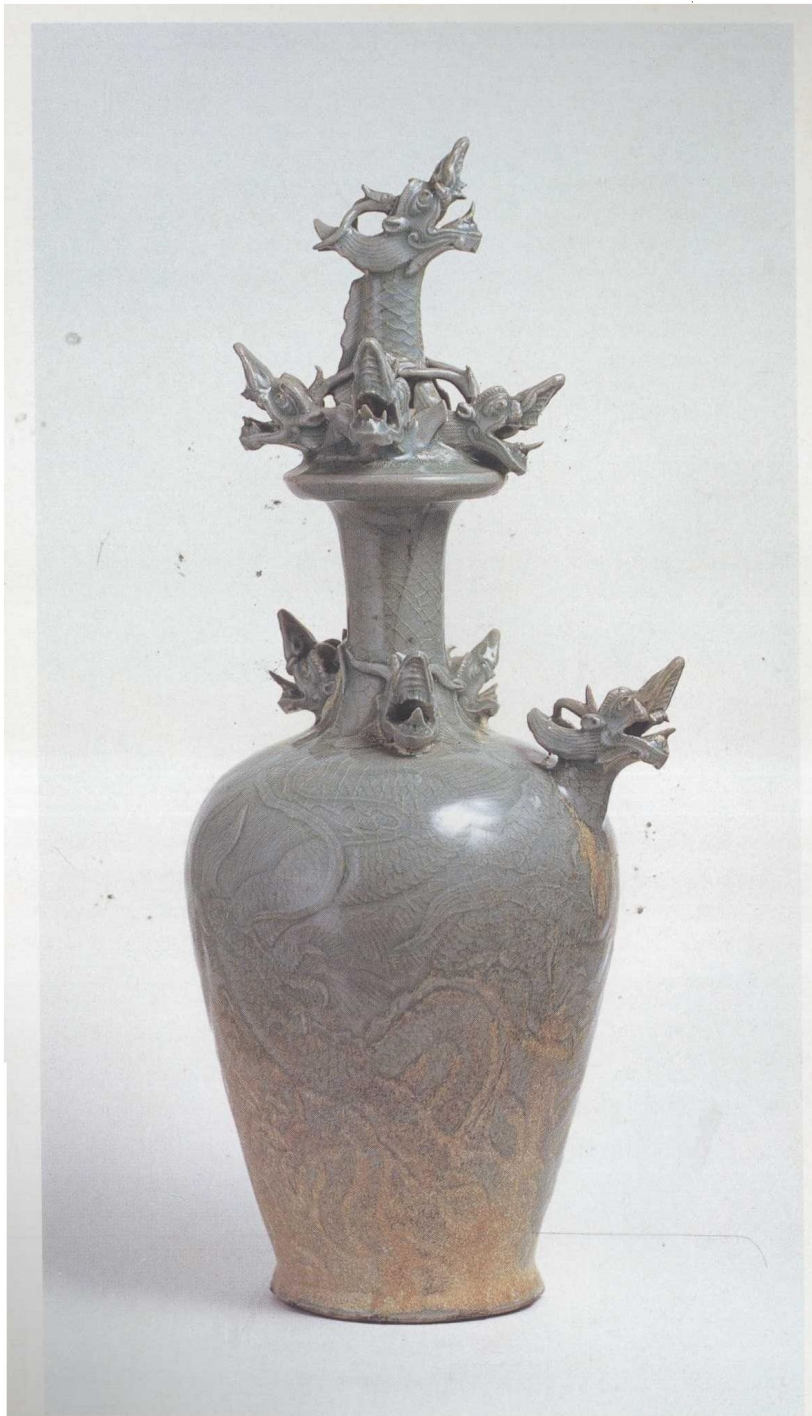
袖裏紅鳳凰文梅瓶 中国



李迪 雪中归牧图 中国 南宋时代初期



云毛益 蜀葵遊猫图 中国 南宋時代



朝日・美術館風土記シリーズ
松浦屏風と大和文華館 目次

大和文華館 この一点

「松浦屏風」(婦女遊楽図屏風)

大和文華館次長

成瀬不二雄

13

展示収蔵品その一
絵画・書蹟

日本、中国、朝鮮

大和文華館学芸部課長

林 進

53

展示収蔵品その二
彫刻

日本、朝鮮、中国、ガンダーラ

大和文華館学芸部員

村田靖子

73

展示收藏品その三

陶磁 日本、中国、朝鮮

大和文華館学芸部次長

吉田宏志

87

展示收藏品その四

漆工・金工・その他 日本、中国、朝鮮、オランダ

大和文華館学芸部員

村田靖子
早川聞多

103

大和文華館 その生いたちと二三年

大和文華館館長

吉川逸治

115

大和文華館收藏品一〇〇選

130

編集顧問

全国美術館会議会長 嘉門安雄
全国美術館会議副会長 匠 秀夫

図版提供 大和文華館

装丁 多川精一・中野達彦

編集協力 福田企画出版

●人名、地名、作品名などの表記は、シリーズのために統一しましたので、各美術館の図録などと、一部違ってある場合があります。また、文章の表記は「朝日新聞の用語の手びき」に準拠しました。

●作品挿図の説明に所蔵美術館名のないものは、すべて大和文華館の所蔵作品です。

大和文華館 この一点

「松浦屏風」(婦女遊楽図屏風)

成瀬不二雄

大和文華館の所蔵品は古文書などを加えても、総数二〇〇〇点に満たず、私立美術館のコレクションとしても決して大を誇るに足りません。ただ、質としてはなかなか優秀で、昭和五七年現在国宝に指定されているもの四件、重要文化財に指定されているもの二七件をふくんでいます。それらのコレクション中から、もつともすぐれた美術品を一点選ぶとすると、いろいろ議論が分かれることでしょう。しかし、一番有名なのは何かというと、それは文句なく「婦女遊楽図屏風」(松浦屏風)であると申せましょう。

この屏風は国宝に指定されていますが、その指定名称は「紙本金地著色風俗図」という無味乾燥なものなので、私どもは図像に基づいて「婦女遊楽図屏風」と呼んでいます。

しかし、この絵は肥前平戸(長崎県平戸市)の大名であった松浦家に、昭和初年まで所蔵されてきましたので、世間では「松浦屏風」といったほうが通りがよいようです。ここでもこの通称に従うことにしましょう。この屏風は室町時代後期から江戸時代前期までに描かれたいわゆる近世初期風俗画の一点ですが、金地六曲一双の大画面に、美しい衣裳を身につけた一八人の女性、を等身大に近く描くとい